



District 2660 Moriguchi Evening

Rotary Club

2022-2023 Weekly Bulletin no.9

創立 2000年11月2日
 例会日 木曜日 18:30-19:30
 例会場 ホテル・アゴーラ大阪守口
 事務局 守口市河原町10-5
 ホテル・アゴーラ大阪守口5F
 TEL06-6995-7440 FAX06-6995-7441

会長 福田 治夫
 幹事 北山 展弘
 会報担当 クラブ運営委員会
 E-mail m-evening@msj.biglobe.ne.jp
 http://www.7b.biglobe.ne.jp/~m-eveningrc/



- ◆国際ロータリー会長
ジェニファーE.ジョーンズ
- ◆第2660地区ガバナー 宮里 唯子
- ◆クラブテーマ「イマジンロータリー」

本日例会 2022年12月 1日(木) 第914回

担当：会員組織委員会

卓話：「台北長安RC
創立20周年式典出席報告」

福田 治夫 会長

前回例会 2022年11月17日(木) 第913回

- 開会 会長
- ロータリーソング「それでこそロータリー」
- お客様のご紹介
もりぐち夢・未来大使 岩田 稔様
(元阪神タイガース)
金崎 敦様 (金崎会員ご子息)
- ニコニコ箱報告(小計8,000円 累計180,000円)
福田会員 岩田さんをお迎えて。
金崎会員 岩田稔様の来会を祝して。
- 会食
- 委員会報告
小林ロータリー財団委員長
台北長安RCとのGG事業報告

7. 幹事報告 (長野副会長)

○会合開催連絡

- ・11/18(金) 大阪RC創立100周年式典開催
福田会長出席
- ・11/19(土) 米山梅吉記念館訪問開催
米山奨学生のチムカさん参加
- ・11/22(火) 台北長安RC創立20周年式典開催
福田会長、柳本会長エレクト、
小林会員、中道会員出席
- ・11/25(金) 守口RC・守口イブニングRC
合同コンペ開催

○事務局閉局連絡 11月18日(金)

○休会連絡

11月24日は休会です。次回開催日は12月1日となりますので、お間違いのないようお願いいたします。なお、12月1日は定例理事会を開催しますので、役員、理事の皆様はご出席ください。

8. 出席報告 (会員総数23名)

11月17日 出席15名 欠席8名 出席率65.22%
メイクアップ報告

10月13日 出席15名 欠席8名 出席率65.22%
(メイクアップ者 1名)

9. 会長の時間

10. 本日のプログラム

担当：国際奉仕委員会

卓話：「元阪神タイガース岩田稔氏のお話」

卓話講師：もりぐち夢・未来大使 岩田稔氏

11. 閉会 会長

会長の時間

次週11月24日は地区ライラ委員会に会長、副会長、幹事の3名が出席するため休会となります。この会議で来年の春のライラ研修の予算組や大枠の詳細を詰めていくことになるため、会長、幹事と実行委員長の出席が必要とされております。このため、イレギュラーではありますが、12月1日の振替休会予定日と変更させていただきました。急に寒くなってきましたので、皆様もご自愛いただき、次回開催日の12月1日に元気に再会したいと思いますので、よろしくお願い致します。

INFORMATION

次回例会 2022年12月 8日(木) 第915回

「年次総会」

議長：福田 治夫 会長

12月の予定

- 12月 1日(木) 通常例会
- 8日(木) 年次総会
- 15日(木) クリスマス家族例会
- 17日(土) 移動例会「地区大会」
会場：大阪国際会議場
- 22日(木) 細則休会
- 29日(木) 年末休会



卓話

元阪神タイガース

岩田稔氏のお話



もりぐち夢・未来大使
元阪神タイガース

岩田 稔氏

元阪神タイガースのピッチャーで、もりぐち夢・未来大使をさせていただいている岩田稔です。私は守口出身で、庭窪小学校、庭窪中学校、大阪桐蔭高校へ行き関西大学へという道を進みました。

野球を始めたきっかけは幼稚園の頃、3歳上の兄が父親とキャッチボールをしている姿を見て「おもしろそうやな」と思い、自分でグローブをはめてボールを持った時に「カッコイイ」と感じたのが野球を始めるきっかけでした。小学1年生で「庭窪スポーツ少年団」に入り、6年間プレーをして野球の楽しさ、仲間とワイワイする楽しさを教えてもらいました。小学校の卒業文集で将来の夢として「巨人に入って阪神を倒す。年俸は2億円。将来監督をやる」みたいなことを書きましたが、実際にプロ入りするときは真逆になりました。夢や目標は言葉に出したり、紙に書いたりするのはとても大事なことでと思います。その時は何気なく書いたと思いますが、書くことによって夢に向かうために練習をするきっかけを与えてくれた気がします。中学校では「門真シニア」に入りました。週5日練習をやっていましたが、桐蔭に行きたいと言ったら監督の目の色が変わり、今の練習では足らないと2日間の休みも練習に付き合ってくれましたが監視されていて手が抜けず、その時は「マジ、もうええって」という感じでしたが、今思うと私に時間を割いてくれて、期待してくれていたんだなと感謝しています。大阪桐蔭に入ってから順調にキャリアを重ねていましたが、高校2年生の冬に急に体調が悪くなりました。痩せてトイレが近くなり、のどが渇き、練習にもついていけなくなりおかしいと感じていました。風邪で病院に行った時、病院をたらい回しにされて最終的に総合病院で、医師から「君は1型糖尿病です。今の医学では、一生インシュリン注射を打ち続けなければいけない病気で治ることはありません。」と言われました。私がへこんでいる時、医師から「岩田君、こんな先輩がいるよ」と教えてもらったのが、巨人のビル・ガ

リクソン選手です。ガリクソン選手も1型糖尿病でした。「1軍でこれだけ活躍できるなら、自分もできる」と野球を諦めずに続けることが出来ました。続けることは出来ましたが入院が必要でした。入院中に血糖値を測り、自分でインシュリン注射を打てるようにならなければいけません。それは1週間でクリアすることができましたが、1週間練習をしないということがどれだけ体力を下げ、練習についていけなくなるかという事を考えずに過ごしていました。2年生の秋の大会で、近畿大会まで出場し、運が良ければ翌年の選抜高校野球に出られる可能性もあるくらいにやれていたのですが、投げる方もそれほど状態は落ちていないだろうと思っていましたが、めちゃくちゃ落ちており、練習で取り戻さなくてはいけないと無理をしてオーバーワークになり腰や肘を怪我してしまい、夏の大会は背番号1番を付けてベンチで座っているという悔しい思いをしました。

高校卒業後、大阪桐蔭野球部のエースは社会人に進み、そこからプロ野球を目指すという流れがあったので自分も社会人に行くことと決め、ある企業から内定を受けました。夏の大会が終わった時、監督から1型糖尿病を理由に内定取り消しの連絡があったことを伝えられました。これからどうしようかと思っていた時、監督から大学の指定校推薦をとれるように頑張れと言われて、親にも経済的に迷惑をかけるので「内定を取り消した企業を見返すため、4年間死に物狂いで頑張るから応援して欲しい」と頭を下げて大学に行かせてもらいました。

日頃のトレーニングが上手くいき、高校では139kmだった球速も大学では140km後半になり左投げでその球速を投げられる投手はなかなかいなかったもので、ドラフト候補に名前が挙がるようになりました。4年生のとき監督から「次の企業とのオープン戦、お前が先発でいくから」と言われました。相手は私の内定を取り消した企業です。親にも伝えると、頑張れと応援してくれました。試合当日は過去1番と言えるくらいのピッチングをして6回2安打で抑え「ざまあみろ」という感じで気持ちよく帰ってきました。親も悔しい思いをしていたので、隠れて外野で観戦をしていたのに家に帰ると知らん顔で「どうやった？」と聞いてきたので、高ぶった気持ちで話をし、後で観戦していたことを聞いて恥ずかしい思いもしましたが、大学に行かせてもらった時の気持ちどおり、見返すことは出来たと

思います。

大学卒業後の進路を探っているとき、小学校の卒業文集で書いたようにプロへ行きたいドラフトでも名前が挙がっていたのでチャンスがあるかとも思っていました。その年のドラフトは高校生、大学生、社会人と分離したドラフトで、ドラフト1位が「希望杵」という名前でした。球団が欲しい選手に「希望どうですか？」とたずねてくるので、自分が行くと言えば指名されます。今だから言えますが、当時4球団から話をもらいました。横浜、日ハム、ソフトバンク、阪神の順でした。なぜ阪神を選んだかという、巨人のライバルだからではありません。大学の頃、糖尿病治療の通院が大変なので、大学から近い病院に変えると、途端に血糖コントロールができなくなり、元の病院に戻すと安定したので、医師との信頼関係の大事さに気付きました。地方へ行くと通院が大変になると悩んでいたところ、最後に阪神が声をかけてくれたので阪神を選びました。

阪神は私が1型糖尿病と知った上で声をかけてくれたので、入団の時「1型糖尿病患者の希望の星になりたい」と言いました。小学校の卒業文集に書いたことが実現し、プロになって「希望の星になる」と言うことで背中を見られている感覚になり、真面目にプレーし成績を残していかなければいけないと思いました。入団した2005年は阪神が優勝した年で選手も揃っており、入る隙がないところに入ったので、どのように穴をこじ開けていくのかを考えながら1年目はまったく成績を残せず、2年目でようやく「こうすればいけるか」という感覚になり、3年目に岡田監督が「岩田2ケタ勝つよ」と言って下さったのを新聞で見知りしました。その言葉を信じ頑張っただけでプレーをしていたら、開幕1軍に残れて2ケタ勝てるようになりました。言葉にすることはすごく大事だと改めて感じたので「1型糖尿病の希望の星になりたい」という言葉に嘘はつけません。2009年から1勝につき10万円の寄付をし、通算60勝のうち50勝分を1型糖尿病基金に寄付することができました。自分の言葉を形にすることは出来たのではないかと思います、そこは自分を褒めたいと思っています。

2009年にもう一つすごい経験をさせてもらったのですが、来年第5回目のWBCが開催されます。2009年の第2回目の大会、皆さんの記憶にあると思いますが、イチローさんが韓国戦でセンター前ヒットを打ち、ダルビッシ

ュ投手が抑えて勝った試合のベンチに私はいましました。今まで野球で優勝したこと一切なかったのですが、初めての優勝が世界一でした。日本でリーグ戦優勝するとビール掛けをしますが、アメリカではシャンパンファイトです。ロッカールームにビニールを掛け、その場でシャンパンファイトをしてびちゃびちゃになったのはいい思い出です。

2009年以降は2ケタ勝つことができませんでした。タイトルも取れず、ただ防御率はセリーグ2位というのを何度か経験させてもらいました。先発投手としての成績は残せたかと思いますが、60勝82敗でした。なかなか援護に恵まれず、無援護病とよばれたりしてメンタル的にも結構辛かったです。ただ、それを示すように防御率は良かったので、試合に勝つというのは援護が大事だと思いました。

16年間投げ切ったと思うのは、1型糖尿病の患者さんたちの応援してくれている顔を思い浮かべて投げたので、オフシーズンには小児病棟などの病院周りをしました。自分が勇気を与えに行っているはずなのに、逆に勇気もらって帰る、このような活動ってすごいと感じました。現役の時のオフシーズンは実際には2か月くらいしかなく、そのうちの1か月は翌年のスタートを切るための練習をしなければいけません。なので実際は1か月間です。その1か月間にできることは少なすぎて、これでは1型糖尿病の認知度は上がらないと思い、昨年の引退後に自分のやるべきことを考えた時、やはり1型糖尿病の認知度を上げなければいけないと感じたので、今は啓発活動に全国を飛び回ったり、患者さんに会って話をしに行ったり、学会で研究についての話を聞いたりする活動をしています。この活動は今後も続いていくと思うので、皆さんにも「こんなことができる」とか「こんなことがやりたいけど」とか話があればどんどん言っていただければと思います。本日は有難うございました。

